

附属図書館長

立花 希一

すべての教育研究は図書館に通ず

図書館には多種多様な本があり、分類されて書棚に置かれています。読みたい本を見つけると、机に向かって読書をします。私語厳禁なので、他者から邪魔されずに、個々人が自分の読書に集中できる図書館は、まさに自学自習の場でした。そのためには、読む価値のある本の収集・保存・提供が絶対に欠かせません。

現在の図書館も、当然、収集・保存・提供という重要な機能を果たしていますが、別の機能も備えています。それは、共同学習を促進させる機能です。全面改修された秋田大学附属図書館でも、1階のコモンズでは、図書ばかりではなくパソコンやインターネットを用いて、グループで議論をしたり発表をしたりしながら協力して、問題解決型の学習をすることができるようになりました。図書館は、自学自習だけではなく、共同学習の場でもあるのです。

もうひとつ注目すべき点があります。学内の研究室やパソコン室のパソコンから附属図書館にアクセスすると、図書、雑誌、電子ジャーナルなどの検索が居ながらにできますし、必要な文献をダウンロードして読むこともできます。今や学内のすべての研究室やパソコン室が、図書館端末室の機能を備えています（図書館の蔵書を保有する研究室は以前から図書館分室でした）。したがって、大学全体がひとつの図書館だといっても過言ではありません。

さらに自宅にインターネット接続のパソコンをもっているひとは、そこから文献検索や学習室の予約などができますから、自宅もまた図書館の一部です。「すべての道はローマに通ず」ならぬ「すべての教育研究は図書館に通ず」なのです。